

決算から、
お伝えしたいこと

決算から小諸市の現状を知っていただき、
そして今後の見通しを知っていただき、
一緒に小諸市のことを考えましょう。

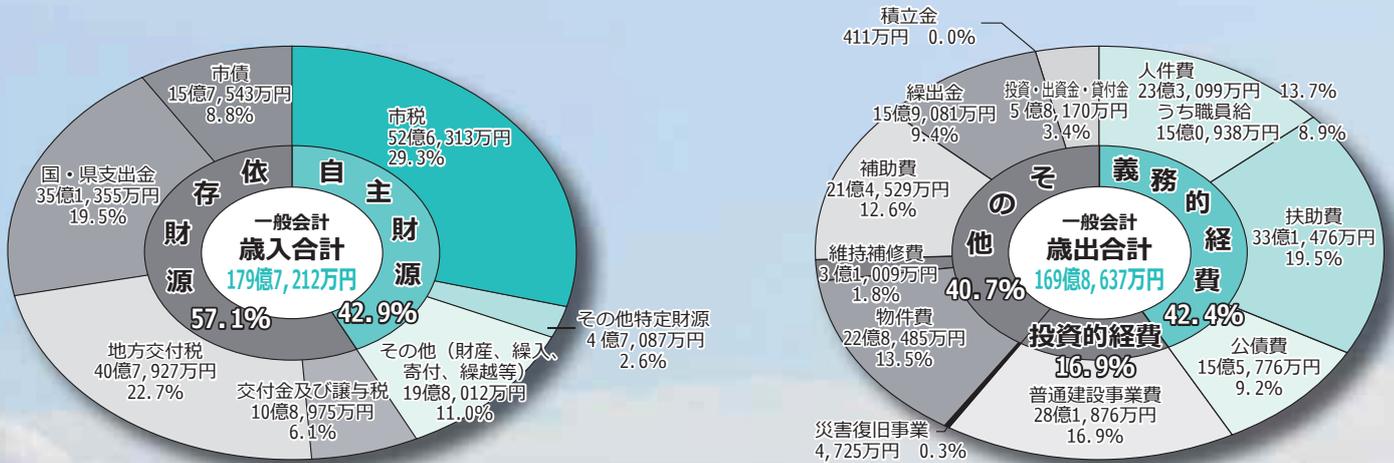
線を辿って、
何気なく読むだけでも
少しずつ伝わってきます。

平成28年度 決算報告

まずは、一般会計を見てみると、

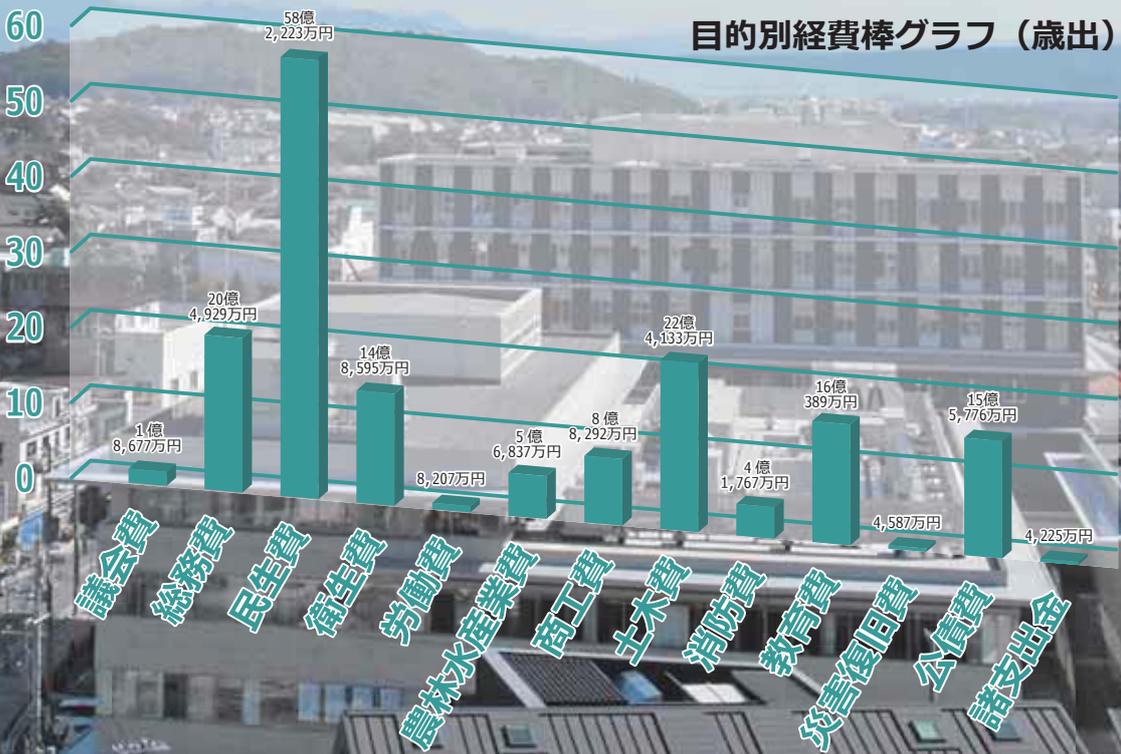
※市には、一般会計以外にも「特別会計」や
「企業会計」が存在します。

性質別経費円グラフ



(億円)

目的別経費棒グラフ (歳出)



皆様に納めていただいた税金は、どのように使われたか。

平成28年度に実施した主な事業

総務費

システム管理、防災、徴税などのための経費。

▶ 防災情報基盤整備・運用事業

4億5,496万円

民生費

障がい者や高齢者に対する福祉、子育て支援などのための経費。

▶ 生活保護等扶助費

5億4,687万円

衛生費

保健、医療、環境などのための経費。

▶ 地域医療体制整備事業

(病院への新築補助金など) 3億6,451万円

土木費

道路、橋、河川、公園の整備などのまちづくりのための経費。

▶ 市営第2駐車場の整備に係る経費

6億7,580万円

教育費

学校教育や生涯学習の充実、スポーツ等の振興のための経費。

▶ 小学校施設維持管理に係る経費

3億148万円

※一般会計のほかに、自治体には「特別会計」があります。「特別会計」とは、同じ目的で行う事業を一つの会計にしたものです。一般会計と分けることで収支が分かりやすくなるため、会計を分けています。(下表：主な特別会計)

会計名	歳入決算額	歳出決算額	
特別会計	国民健康保険事業	54億5,473万円	53億1,913万円
	後期高齢者医療	4億2,507万円	4億2,338万円
	介護保険事業	37億2,143万円	34億9,130万円
	農業集落排水事業	2億3,772万円	2億3,270万円
	小諸公園事業	1億4,368万円	1億2,464万円
企業会計	水道事業 収益的収支	10億2,679万円	9億301万円
	資本的収支	1億7,469万円	4億2,402万円
	下水道事業 収益的収支	12億6,431万円	11億7,088万円
資本的収支	6億3,155万円	10億6,007万円	

※企業会計では、資本的収入が支出に対して不足する場合には、減価償却費などの企業内部で留保されている資金などの補てん財源で補てんするものとされています。

歳入総額

179億7,212万円

(市債15億7,543万円万円含む)

歳出総額

169億8,637万円

ということは…

1年間で

約10億円の黒字!?

ここで、市の借金と貯金を見てみると、

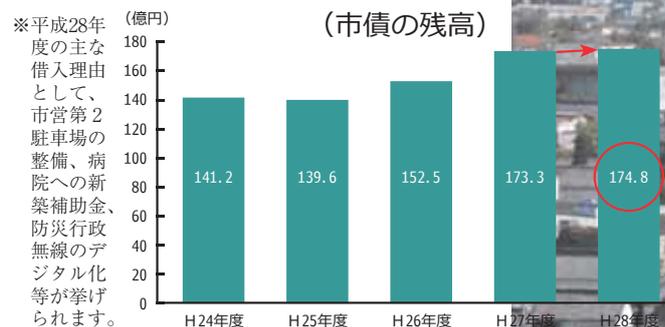
※翌年度繰越財源を引くと、実質は5億1,600万円の黒字です。

あれ!?

市債(借金)が増え、 基金(貯金)が減っている!?

下表は、直近5年分の市債と基金残額の推移を表しています。平成28年度の一般会計で約10億円の黒字に見えても借金が上がっていることが分かります。その理由には、毎年の借金返済に必要な額(公債費)よりも平成28年度にお金を借り入れた額の方が多かったためです。簡単に言い換えると、返す額より借りた額の方が多いということです。

一般のご家庭でも、車や家をローンで買った場合は、借金が上がるのと一緒の考え方です。



ただ、借金することには意味があります。

借金が増えたからといって、必ずしも悪いことではありません。公共施設の改修や道路の改修など、今後も長く使用していくため、改修費用をその当時の税金だけでまかなうと、当時に納税している方に負担がすべてかかり不公平となることから、これから先も使用する人たちと一緒に負担を分け合う意味が借金には含まれています。

しかしながら、借金が多くなり過ぎると、健全な自治体運営ができなくなります。小諸市では、健全財政を維持するための基準として「第10次基本計画」で、次のように定めています。この基準を最低限の水準と定めることで、健全な自治体運営に努めます。

市債残高は、190億円以下、基金残高は、56億円以上。

全国の自治体では、国が示す下表の「財政健全化判断比率」で健全に自治体運営ができているかを確認します。ここで、小諸市の状況を見てみます。

「財政健全化判断比率」から小諸市を見てみると、

※早期健全化基準の数値より下であればあるほど、健全な自治体運営といえます。

指標	内容	結果	早期健全化基準
実質赤字比率	一般会計で生じている赤字と、その市の財政規模との割合	赤字なし	13.33%
連結実質赤字比率	一般会計のほか特別会計・企業会計なども含めた赤字と財政規模との割合	赤字なし	18.33%
実質公債費比率	借入金（市債）の返済額（公債費）等と財政規模との割合	9.3% 県内19市中13位	25%
将来負担比率	市が将来負担すべき負債と、市の平均的な収入規模との割合	30.5% 県内19市中8位	350%
公営企業会計資金不足比率	公営企業（水道や下水道など）の資金不足額と事業規模との割合	資金不足なし	20%

「財政健全化判断比率」を見る限り、小諸市の財政状況は、

健全であると判断できます。

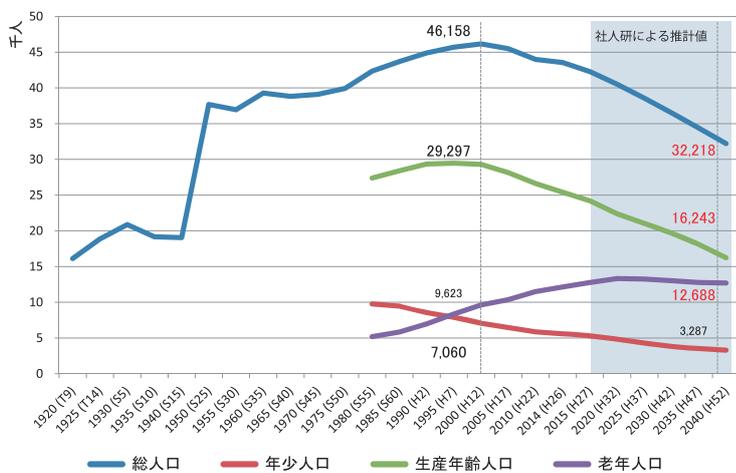
※早期健全化基準を上回った場合は、国の定めに従い、健全化に向けた取組みを行うこととなります。

しかし、これから大きな課題に直面します。

- 人口減少に伴う市税の収入減少
- 深刻化する少子高齢化と生産年齢人口[※]の減少
- 公共施設の老朽化による改修
- 近年、多発する災害への対応

※ 労働力の中核をなす15歳～64歳の人口層。

支える人が減って、 支えられる人が増える!?



※小諸市総合計画第5次基本構想より抜粋

人口が減少することがほぼ確実とされているなか、小諸市も例外ではなく、左図のとおり、23年後には現在の人口より約1万人減ると予想されています。

一番問題になることは、生産年齢人口といわれる税金を納めて、市を支えてくれる世代が減ることです。そして逆に高齢者人口が増え、支えられる人が増えることが大きな問題になります。

このことにより、公債費（毎年の借金の返済額）は変わらないが税金の収入が減り、必要な行政サービスが行えなくなる可能性が出てきます。

待ち受ける公共施設等の老朽化

何もしなければ公債費は徐々に減少していくことが考えられますが、何もしないわけにはいきません。市にある公共施設の老朽化が進み、公共施設の更新は喫緊の課題となっています。そして、生活基盤であるインフラ施設は、消耗するごとに改修するため費用がかさみます。いつ起きるか分からない災害にも備えが必要です。

ならば、どうする!?

小諸市の未来を市民の皆様と 明るく元気に。

具体的に何かをするということではなく、今以上に小諸市の現状を知ったり、小諸市の動きに耳を傾けたり、市のイベントに出かけてみたりなど何でも結構です。市では、小諸市の未来のために様々な取り組みを行っていますので、今まで以上に皆様のご協力をいただきますようお願いします。

皆様が揃って小諸を想うだけで、それは大きな力になり、小諸を元気にします。

皆様の方で、小諸市の未来、そして小諸市に住む自分たちの未来を明るくしていきませんか。

